

ネイティブ・スピーカーとの 体験的な外国語活動を通しての国際理解教育

小学校における外国語活動研究会議

研修員 轡田 亜子（川崎市立幸町小学校）

殿岡 富之（川崎市立小倉小学校）

石川 奈緒美（川崎市立百合丘小学校）

研修指導主事 小池 優一

主題設定の理由

平成10（1998）年7月の教育課程審議会答申¹⁾において、「小学校における外国語の取り扱いとしては、各学校の実態等に応じ、『総合的な学習の時間』や特別活動などの時間において、国際理解教育の一環として、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習活動が行われるようにする必要がある。」と提言され、これを受けて、新しい小学校学習指導要領では、3学年以上の児童が、新たに設けられた「総合的な学習の時間」の中で上述の学習活動を行うことができるようになった。

本研究会議では、小学校においてどんな活動が可能かについて探ってきた。子どもたちの周囲では国際化が進み、21世紀には日常生活レベルで外国人との交流がさらに広がることが予想される。小学校段階の早い時期からの外国人を含めた様々な人々との交流は、知識として学ぶばかりでなく、体験的な学習を通して自分と異なる文化に気付き、それを共感をもって受け入れたり、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意志を表現できる基礎を育成することができると思う。また、早い時期に外国語に接することで外国の言葉に対する興味・関心をもたせることもできると考える。

川崎市内の小学校では、今年度114校中67校がALTを活用しての英語活動を実施している。既に実施している小学校では、英語活動に対して前向きな考えがある一方、特にネイティブスピーカーとの活動を計画、実施していく上での課題等も挙げられており、こうした英語活動が、今後さらに多くの市内の小学校で行われることを考えた場合、何らかの具体的なガイドラインとなる活動案、教材等が求められるものとする。

研究の内容

本研究会議では、以下に示した4項目を重点に研究を進めた。

- ・年間10回程度の活動を中心とした年間計画を作成する。
- ・「小学校英語活動実践の手引」（文部省 2000年12月）で挙げた言語材料、語句、表現を参考にした活動案を作成し、授業実践したものを提示できるようにまとめる。
- ・1時間の活動で扱う言語材料、語句、表現のそれぞれに関連付けを図る。
- ・他教科での学習内容を関連させた単元を組む。

また、昨年度までの実践から英語活動を実施するに当たって以下のように進めた。

1) 教育課程審議会答申 1998年

- ・外国語指導助手（本研究ではALT）との直接的な体験，交流活動を中心に行う。
- ・「聞く」「話す」活動を中心に行う。
- ・言語以外の表現活動（ジェスチャーなど）を，積極的に活動に取り入れる。

1. 年間カリキュラムについて

昨年度までは，個々の活動案を収集，開発し，実践を積み重ねていく取り組みであった。今年度は，単発的なゲームなどが無計画に行われないように，年間の見通しを立ててカリキュラムを組み活動を実践してきた。

次に年度当初に計画した年間カリキュラムの例を載せた。研究会議の研究のためにALTを派遣している小学校では，月1回程度の英語活動を想定して，年間計画もそれに準じて作成した。

英語活動年間活動計画案

S小学校 3学年

	月	題 材 名	主 な 活 動
1	4	Niceto meet you. Fruits Basket	・いろいろなあいさつや，簡単な自己紹介をしながら交流する。 ・果物の名前を使ってのゲーム
2	5	Let's makemy name tag!	・名札づくりを通して"What color do youlike?" ・"What's your name?"の言い方に親しむ。
3	6	"Brown Bear, Brown Bear, What do you see?"	・絵本を読んでもらったり，寸劇をしたりする。
4	7	Let's playbowling.	・1から10までの数え方に慣れる。 ・"Strike!" "Almost!" "Don't worry!"などの言い方がどのような状況で使われるかを知る。
5	9	Let's playJapanesegame.	・日本の遊びをALTに紹介して，一緒に遊ぶ。

O小学校 第3学年

8	11	"What time is it?" " - o'clock."	・時刻を使ったゲームを通して数字に慣れ親しむ。
9	12	"What time is it?" " - half "	・時刻のいろいろな言い方に気が付く。 ・時刻を使ったゲーム
10	12	What's "KONCYU" inEnglish?	・理科で学習した昆虫を英語で紹介する。 ・昆虫の名前を使ってゲームをする。
11	1	Let's playgameusing the names of insects.	・昆虫，昆虫以外の虫の名前を確認する。 ・英語の表現に親しむ。
12	2	Thank you!	・教えてもらった英語の歌を披露し，一緒に歌う。 ・英語を使ったゲームをする。

2. どのような言語材料，語句，表現を扱うかについて

平成12(2000)年に文部省(現文部科学省)から出された「小学校英語活動実践の手引」を参考にして，活動案作成時に提示されている語句，表現，歌等をできるだけ組み込んでいった。具体的には pp.7-13 を参考にして次時の活動案を作成した。

また，1時間の中で各々の活動で扱う語句，表現等も関連させることで活動の流れをもたせることを図った。

3. 他教科での既習事項を関連させての活動

他教科で学習した内容の一部を英語活動で活用することは，学習した内容を深めるとともに日常語ではあるが，直接英語活動で扱うと難しいであろう語句を容易に理解させ，活動の幅をもたせることができる。

3 学年英語活動の実践例

日時：2002年1月29日(火)第5校時

題材名：Is a spider an insect?

題材を取り上げた理由：3年生は9月に理科で昆虫，その他の虫について学習しており，それらを英語活動でも扱って，既習の学習との関連を図ろうとした。

展開：ウオームアップ How are you today? I'm fine, thank you./ I'm tired, etc.

歌 "Ency Weency Spider"

英語活動 ジェスチャー・ゲーム

(児童のジェスチャーを見て，虫の名前を当てる。)

3 ヒント・ゲーム

(ALTの出す3つのヒントから虫の名前を当てる。)

研究のまとめ

1. 研究の成果

ALTとのチーム・ティーチング

ALTが小学校での英語活動に参加し，月1～2回の活動実践を重ねてきた。ALT側も教え込みでなく，外国語に親しませる目的の活動を理解し，各小学校でチーム・ティーチングの形態が少しずつではあるができてきた。また，この段階に至るまでに日本人教師とALTとでも事前の話し合いが深まってきたことも挙げられる。

2. 今後の課題

チーム・ティーチングについて

本研究では，担任と外国語指導助手(ALT)との2者でのチーム・ティーチングを行ってきた。外国人と接し，英語に触れる活動を行うことは，小学校段階の子どもたちにとっては大きな驚きであり，喜びでもある。

だれでも・どこでも使える活動案の提供

2000年度に川崎市内全校と各種教育機関が KEINS ネットでネットワーク化し、情報交換がさらに容易になった。今後さらに実践のフィルターを通したアイディア、活動案等をネットワークで情報提供していきたいと考える。

日本語・英語対訳の年間計画・指導案等の作成

A L Tとのチーム・ティーチングによる活動をすすめる上で、日本人の教員が日本語での活動案を見せながら英語で説明することは大変苦勞することであり、また、A L Tが日本語で説明を理解することも大変難しいことである。日本人教師とA L Tが同時に活動の内容を理解できる、2カ国語による活動案を今後作成していきたい。

研修会の開催

活動事例集を基に研修会や授業研究会等の開催を計画し、小学校の先生方に具体的に活動の意義や方法を伝えていきたいと考える。

おわりに

現在行われている小学校での英語活動は、英語の専科ではない担任の先生とA L Tとの協同作業による活動である。最初は言葉でなく、とにかく交流してみることが大事である。そうすることで次第に分かり合えるようになる。そのことから次に子どもたちは、英語を知りたい意欲につながっていく。現在まで積み重ねられてきた実践は、子どもたちに英語を体験的なものとして感じさせることができていると考える。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、適切なお指導・ご助言をいただきました先生方、研究をご支援していただいた研修員所属校の校長先生ならびに教職員の皆様に心からお礼を申し上げます。

【参考文献】

- | | |
|---|-------|
| 長江 宏, 太田美智彦『小学校教師の英語活動Q & A』学校図書 | 2002年 |
| 『小学校英語活動実践の手引』Handbook for Elementary School English Activities』文部省 | 2000年 |
| 『英語指導方法改善の推進に関する懇談会 報告』文部科学省 | 2001年 |
| 伊藤嘉一他『小学校英語学習 レディーゴー』ぎょうせい | 2000年 |
| 「研究紀要」第12, 13号 川崎市総合教育センター | 2000年 |
| 「東京都文京区立誠之小学校第4年次研究開発実施報告書」 | 2000年 |
| 「幸せの町から世界へ - やさしく たくましく ひろく - 」川崎市立幸町小学校 | 2001年 |
| 川崎市教育委員会研究推進校 国際理解教育を核とした総合的な学習の時間 研究紀要 | 2001年 |
| 「NHK学校放送 エイゴリアン」1学期 NHK出版 | 2001年 |
| 「NHK学校放送 エイゴリアン」2学期 NHK出版 | 2001年 |

【研究協力者】

- | | |
|------------------|--------|
| 小学校英語教育学会事務局長 | 太田 美智彦 |
| 東京学芸大学附属世田谷小学校講師 | 粕谷 恭子 |

平成13年7月 日
研究推進企画会

指導主事と研修員用

平成13年度

紀要原稿提出用紙

研究会議名	小学校における外国語研究会議
担当指導主事名	小池 優一
作成ページ数	4 P ・ 6 P (どちらかにをつける)
研究主題・副主題	
ネイティブ・スピーカーとの体験的な外国語活動を通しての国際理解教育	
主題の要約 (20字以内)	
ALTとの活動を通しての外国語学習の可能性	

確認印

1 教科教育研主幹(3/8 まで) ⇒ 2 担当室長

⇒

3 教科研究室長(3/18 まで)

4 所長 (3/25 まで)

- ・ 執筆者は、原稿のコピーを袋に入れこの用紙を袋に貼る。上記日程で確認印をもらい 3/25 (月) までに印刷用原稿とフロッピーを教科紀要担当まで提出。
- ・ この用紙に記入したら 1 部コピーし、3月8日(金)までに白井研修指導主事まで。
検印を押して次の担当に送る時は、修正原稿になっていること。(朱書き入り不可)